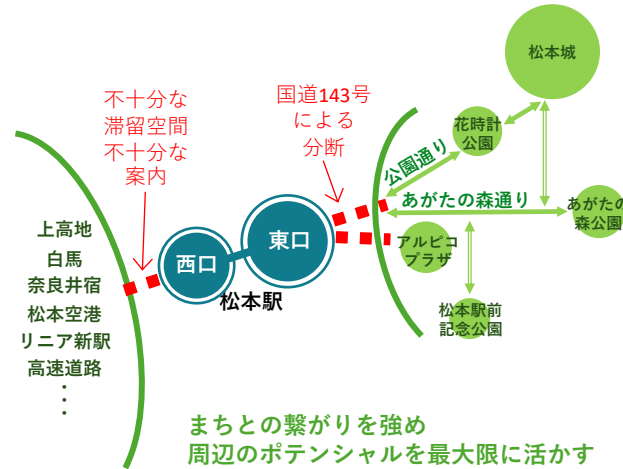


目指す姿

まちとつながり、パブリックライフが多様に展開する、松本「くらし」のターミナルの実現 ー 外とつながる「起点」に加えて、まちとつながる「拠点」へ ー

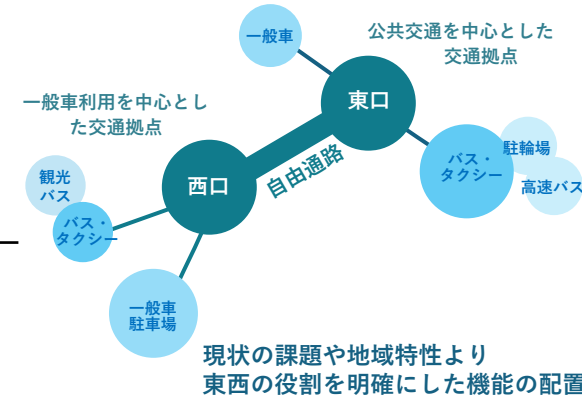
コンセプト①：まちとの接続性を向上と、駅周辺の拠点性を高めた拠点間の回遊の創出

現状ではまちと駅の繋がりが不十分であり、松本駅の立地特性を十分に発揮できておらず、東西のまちとの繋がりを強化する必要がある。東口は、ウォーカブルな動線として位置付けられる公園通り・あがたの森通りと、駅前広場が国道143号で分断されているため、国道143号等の歩行者優先整備を実施し、駅とまちの接続性を向上させる。西口はアクセス性が高い一方、滞留空間が不十分であるため、日常利用の市民と、広域移動をする観光客などが快適に滞在できる広場空間の創出と広域案内機能の強化を目指す。松本駅周辺そのものの魅力と拠点性を高めることで、既ににぎわいの核となっている松本城周辺との拠点間の回遊を促し、さらなる活性化を図る。



コンセプト②：交通施設を効率化し、多様な交通モードがシームレスにつながる次世代のモビリティハブの創出

鉄道、路線バス、タクシー、一般車、高速・観光バス、重要性が増している自転車・徒歩移動等の既存交通に加え、新たに考慮すべき交通（リニア中央新幹線の影響、信州まつもと空港からの2次交通、次世代モビリティなど）を含め、多様な交通モードがシームレスにつながるよう交通施設を効率的に再配置し、結節点機能を強化する。駅東西の立地特性と現状や将来の課題を元に、東西の役割を整理し、施設配置・規模を見直す。また、駅前広場の案内表示における観光情報の一元化や多言語対応など、UX向上施策によって次世代のモビリティハブとして相応しい全国でも先進的な駅前広場を目指す。



コンセプト③：多様で豊かなパブリックライフが展開する松本らしさを感じられる広場デザイン

松本の玄関口として、北アルプスや豊富な湧水といった雄大かつ身近な自然、城下町の歴史・文化、そして日常に息づく質の高い芸術など、松本の暮らしの魅力を体感し、その先に広がる松本城やまちへの期待を高める“予告編”となる駅前広場を目指す。日常的で多様なパブリックライフが展開するための利活用を促す広場デザインを行うことで新しい松本の玄関口に相応しいシーンが広がり、次の時代を支える新しい松本らしさを創出する。また、西の北アルプス、東の美ヶ原高原といった魅力的な山岳・連峰風景の眺望を活かした空間づくりを行う。以上により、市民に愛され、シビックプライドが醸成される、来街者にとっても魅力的な駅前空間の創出を目指す。

